

備

五年 画数 12
筆順 一 伊 備 備 備
クソ ビ
そなりえる川わる



↓ 備 ↓ 備 ↓ 備 ↓ 備 ↓ 備
↓ 備 ↓ 備 ↓ 備 ↓ 備

人がよろいを身につけたすがたを表した「備」と、「イ」を組み合わせせて作った字です。

「人がよろいを身につけて、敵に『そなえる』」ことを表した字です。『そなえる』こと。

「前もって用意しておくこと」です。例準備、設備、備忘、完備、具備。

また、『そなえ』という意味にも使います。例軍備、守備、防備。

使い方

▽昔から、「備えあればうれい無し」と言われています。何事にも準備がたいせつです。

▽ぼくたちの学校の設備は、市内十校の中では一番すぐれているそうです。

▽わたしたちの町の野球チームは、攻撃型ではなくて、守備のチームだと言われています。

熟語例

▽準備 (準備は標準、基準の意味。標準的な備え、という意味で、常識的に考えられる「備え」のこと。)

▽設備 (「設けられた備え」で、建物に必要な備えつけの施設のことを言います。)

▽完備 (準備、もしくは設備が完全にできていることです。例防火施設が完備しているホテル)

▽具備 (具は「備わる」こと。必要なものが十分に備わっていること。)

▽兼備 (二つの事が兼ね備わっていること。例才色兼備 [才能と容色とどちらも備わっていること。])

▽軍備 (軍隊の備え。戦争の備え)

▽守備 (守りの備え。単に「守り」とも言います。)

俵

五年 画数 10
筆順 一 伊 俵 俵 俵
クソ ヒヨウ
たわら



↓ 俵 ↓ 俵 ↓ 俵 ↓ 俵
↓ 俵 ↓ 俵 ↓ 俵 ↓ 俵

この字は、中国にもありますが、使い方は全く異なりますので、わが国で作った文字と見るべき字です。

「着物」の意味を表した「表」と、「イ」とを組み合わせせて作った字です。

「人の体を包む着物」という意味の字で、「人の体を養う」米を包む着物(たわら)を表したものです。たいせつな「米」を「人」になぞらえたものです。

成り立ち

使い方

▽今は、お米を十キロ入りのふくろで買っていますが、お母さんが子供のころは、俵入りのお米を一俵ずつ買っていたそうです。

▽ぼくの学校にも、運動場に土俵が作られました。これからは、土俵の上ですもうが取れるので、とてもうれいそうです。

熟語例

▽一俵 (俵を数える時の数え方。二俵の時はヒヨウ、三俵の時はビヨウ、六・八・十俵の時はビヨウと言います。)

▽土俵 (土を入れた俵。すもうを取る場所に、土俵を円形にしき、その中ですもうをします。ふつう、土俵で囲まれた中のことを「土俵」と言います。)

▽土俵入り (横綱が太刀持ち、露払いの力士を従えて土俵の中で行う儀式の名前です。)

▽米俵 (米を入れる俵のこと。また、米の入っている俵のこと。)

▽炭俵 (炭を入れる俵のこと。また、炭の入っている俵のこと。)